

授業概要

この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の『ロミオとジュリエット』をとりあげる。意外に思われるかもしれないが、この作品はパンデミックと深い関わりがあり、まさに、今読むべき作品と言える。文学史上最高傑作のひとつであり、あらすじなどはよく知られているが、この授業では、テキストを翻訳を用いて精読しながら、この作品を様々な視点から考えていく。さらに、毎回様々なテーマをとりあげ、この作品の持つ多様な側面についても検討していく。

授業計画

第 1 回	イントロダクション
第 2 回	『ロミオとジュリエット』①/プロローグ キャピュレット家とモンタギュー家
第 3 回	『ロミオとジュリエット』②/ロミオとマキューシオ
第 4 回	『ロミオとジュリエット』③/ロミオとジュリエットとの出会い
第 5 回	『ロミオとジュリエット』④/バルコニーの場面
第 6 回	『ロミオとジュリエット』⑤/修道士ロレンス
第 7 回	『ロミオとジュリエット』⑥/ロミオとジュリエットの結婚と予期せぬ出来事
第 8 回	『ロミオとジュリエット』⑦/マキューシオとティボルトの死、ロミオの追放
第 9 回	『ロミオとジュリエット』⑧/ジュリエットと乳母との決別
第 10 回	『ロミオとジュリエット』⑨/眠り薬と毒薬
第 11 回	『ロミオとジュリエット』⑩/遅すぎた和解
第 12 回	『ロミオとジュリエット』のヴァリエーション①ミュージカル、映画など
第 13 回	『ロミオとジュリエット』のヴァリエーション②バレエ、オペラなど
第 14 回	『ロミオとジュリエット』のヴァリエーション③ジャンルを超えた様々な試み
第 15 回	まとめとフィードバック
第 16 回	レポート提出

到達目標

文学作品の持つ可能性を最大限引き出すために必要なことを、授業の中で実践していく。歴史的背景や文化的背景を知ること、「ことば」をコンテキストに即して読むことの重要性を学んでいく。さらに、さまざまなことを幅広く学びながら、文学作品のより深い理解に欠かせない知識も蓄積していく。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末レポート50%、各種課題30%、授業態度20%。

テキスト

教科書名：『新訳 ロミオとジュリエット』

著者名：ウィリアム・シェイクスピア（河合祥一郎訳）

出版社名：角川文庫

※開講日までに購入すること。また、図書館などを利用して、複数の翻訳を読み比べることもすすめる。